

2026年5月吉日

2026(令和8)年度第65回日本数学史学会総会へのご案内

日本数学史学会会長 小林 龍彦

関東の山野は春を終えて、あっと言う間に初夏への模様替えを終えましたが、会員諸氏の在地も移ろいの早い季節変化が進行していることでしょう。過ぎゆく光陰の狭間にあっても会員諸氏には、ご健勝のうちに研究と教育活動に身を委ねられていることと存じます。

さて、2026年6月7日(日)、第65回日本数学史学会総会が開催される運びになりました。本年もzoom(遠隔操作)による総会となりますが、本年度事業計画だけでなく2027年に向けた事業案も提案されており、事業成功に向けた皆様の積極的な参加と発言を期待する次第です。

『塵劫記』刊行400年もはや来年に迫ってきました。これまで、ことに京阪地区の先進的な会員を中心として『塵劫記』刊行400年の記念事業計画が策定されてきましたが、それら計画を具体的に実行に移す時期となってきました。2024年の春から始まった連続シンポジウムは好評のうちに進み、本年4月の第4回連続シンポジウムは、金久孝喜氏による「角倉隧道」の調査報告を主題としました。金久氏の講演は吉田光長・光由らの高度で精巧な土木技術力を想起させる迫力に富むものでした。いま、学会では『塵劫記』刊行400年記念行事の一つとして、吉田光由の業績を顕彰する記念碑の建立を計画しています。言うまでもなくこうした記念碑の建設には相当額の費用を要します。そのため本学会を母体として、多くの団体・個人の賛同をもとにしたクラウドファンディング募金による記念碑の建設を考えております。記念碑の設置場所は角倉一族ゆかりの菩提寺二尊院境内を予定しています。この事業計画も総会で報告される予定ですが、募金実施の際にはご協力の程をお願いする次第であります。また、学会が共催となる全国和算研究大会(京都大会)の準備も進んでいます。会場は京都工芸繊維大学を予定しています。この全国和算研究大会では『塵劫記』を教材とする授業実践なども計画されています。いずれの事業も準備と実施には多大な困難をとまいませんが、会員諸氏の援助を得ながら成功に向けて歩みを進める所存です。

なお、本年度より経費節減の観点から、葉書による総会委任状に代えて、別紙にあるような委任状をもって提出(郵送、mail送信)していただくことにしました。委任状は総会に出席できない会員にとっての意思表示の一つでもあり重要な意味を持ちます。忘れず提出していただけますようお願いいたします。